

1 番 瀬 戸

では、一般質問させていただきます。

受付番号第6号、質問議員1番、瀬戸恵津子でございます。

「（仮称）山北スマートIC周辺土地利用構想概略図の進捗は」ということでございます。

現在、新東名高速道路伊勢原大山IC～新御殿場IC間の工事は、地質の厳しさ等により工法を変更して行うため、令和5年度の開通予定が大幅に遅れる状況である。山北町のスマートICは、平成26年度に連結許可を受けたが、地域の活性化にいかにつなげていくのかが課題となっている。一方では、町のやる気をアピールするチャンスとも言える。

そこで庁内で設置した若手職員によるプロジェクトチームや清水あり方研究会のすばらしい提案が（仮称）山北スマートIC周辺土地利用構想概略図にどのように反映され、また実現に向かって、どのように進めるのか質問する。

①開通までに必要な事業として、ウェルカムサイン等、道の駅と河内川ふれあいビレッジの連絡通路や道の駅眺望スポットの整備、やまなみ橋の路側帯等の取組は。

②開通後に取り組む事業として、旧清水小・中学校・旧清水保育園の有効活用、大野山からの眺望を生かした眺望スポットの整備等の既存施設の整備についての計画は。

③周辺土地利用については、第5次総合計画や第3次土地利用計画と整合性を図り、法規制を精査し検討していくと過去に言われているが現状は。（ふれあいビレッジ隣接地、山砂利採取跡地等）。

④当初からの課題である県道への計画交通量、日に約1,300台に対するインフラ整備の進捗は。

以上でございます。

議

長

答弁願います。

町長。

町

長

それでは、瀬戸恵津子議員から「（仮称）山北スマートIC土地利用構想概略図の進捗は」についての御質問をいただきました。

初めに、1点目の御質問の「開通までに必要な事業として、ウェルカムサ

イン等、道の駅と河内川ふれあいビレッジの連絡通路や道の駅眺望スポットの整備、やまなみ橋の路側帯等の取組」についてであります。現在、町では令和2年3月に策定した「（仮称）山北スマートＩＣ周辺土地利用構想」に示された五つの土地利用展開イメージの事業化に向けて、令和2年度には庁内関係課長で構成される調整会議を立ち上げ、さらに令和3年度からは関係課若手職員によるプロジェクトチームを設置し、検討を進めてまいりました。

検討に当たっては、この構想に示された五つの土地利用展開イメージのうち、「（仮称）山北スマートＩＣのゲート景観の演出」と「道の駅山北周辺での眺望スポットの整備」を事業化に向けて優先的に検討することにしました。そして、庁内調整会議及びプロジェクトチームで検討した内容を基に、本年度、「ウェルカムサインの設置」、「道の駅山北の眺望スポットの整備」、「オアシス公園の再整備」についての概略構想図を作成いたしました。

なお、清水やまなみ橋への歩道等の設置については、橋梁の構造上困難であるため、今後、土地利用構想にある「道の駅山北と河内川ふれあいビレッジの連絡通路の整備」などの検討に併せて、調査研究してまいります。

次に、2点目の御質問の「開通後に取り組む事業として、旧清水小・中学校・旧清水保育園の有効活用、大野山からの眺望を生かした眺望スポットの整備等の既存施設の整備についての計画は」についてであります。1点目の御質問で回答したとおり、現在、町ではスマートＩＣの供用開始を見据えて、二つの土地利用展開イメージを優先的に検討しております。

このため、「大野山からの眺望を生かした眺望スポットの整備」及び「旧清水小・中学校、清水保育園の有効活用」については、現在、事業化に向けての具体的な検討はしておりませんが、土地利用の考え方や導入施設のイメージについては、土地利用構想に示されたとおりであります。

大野山の眺望スポットについては、スマートＩＣ本体や河内川橋などの景観を楽しむ休憩施設などを整備するものであるため、ネクスコ中日本が実施するスマートＩＣの造成法面の植栽による景観づくりが重要となってまいりますので、過日、ネクスコ中日本を訪問し、町の要望を伝えたところであります。

また、「旧清水小・中学校等の有効活用」については、土地利用構想では体験学習施設やサテライトオフィスなどの活用事例が示されております。旧清水小・中学校等の施設については、現在、新東名工事関連事業者が利用している状況ですが、新東名高速道路の全線開通を見据えた中で、今後、地域の御意見なども伺いながら、有効活用について検討してまいります。

次に、３点目の御質問の「周辺の土地利用については第５次総合計画や第３次土地利用計画と整合性を図り、法規制を精査し検討していくと過去に言われているが状況は。（ふれあいビレッジ隣接地、山砂利採取跡地等）」についてであります。山北町第５次総合計画後期基本計画及び「山北町第３次土地利用計画」で示されている「広域交流ゲート・産業振興エリア」は、清水地区を中心としたエリアであり、（仮称）山北スマートＩＣの供用開始に伴い、本町の新しいゲートとなることが期待されており、産業・観光のゲートとして土地利用施策を展開していくことが求められております。

土地利用構想についても、二つの上位計画と整合を図り策定しており、今後、このエリアで土地利用の観点で大きな課題となる事案は、「山砂利採取地の跡地活用」と「旧清水小・中学校の跡地活用」であります。旧清水小・中学校の跡地活用の検討状況については、２点目の御質問で回答したとおりであります。

また、透間地区の山砂利採取地の跡地活用の検討については、現在、事業者が保安林代替施設整備計画やその後の平地化事業計画の見直しを進めている段階であります。このため、山砂利採取後の跡地がどのように緑化造成されるのか最終的な方向性が定まっていない状況であるため、具体的な検討はしていませんが、引き続き、事業者等と連携し事業の進捗状況に注視してまいります。

次に、４点目の御質問の「当初からの課題である県道への計画交通量約１,３００台、１日当たりに対するインフラ整備の進捗は」についてであります。計画交通量約１日１,３００台は、平成４２年（令和１２年）の１日当たりのスマートインターチェンジの利用台数を、平成１７年度交通センサスのデータを使用し、周辺国道の交通量や、近隣のスマートインターチェンジの整備状況等を基に推計したものです。インフラ整備では、スマートインターを利用される方

が安全・安心な通行ができるように、町道10号スマートインター線及び県道76号山北藤野線との交差点の交通安全対策を、現在、県警本部と協議を行っているところであります。

議 長 1 番、瀬戸恵津子議員。

1 番 瀬 戸 本日3人目も同じ内容に近い質問で、今、前の瀬戸議員からの御回答の中で大変すごくよく理解できる話がたくさんございましたので、私は一応確認というような形で質問させていただきたいと思います。

今までにも、このインターチェンジ周辺の土地利用将来像については、令和元年、2年、3年と毎年のように同僚議員からも質問されていることがございます。その中ですごく前向きに答えてくださったこと。それとまるっきり同じようなことを今日もおっしゃってくださったから、これ確定のことなんだなと思うことと、果たして、これが本当に大丈夫なのかと思うようなことに、ちょっと気になったようなことについて質問させていただきます。

まず、以前より委員会でも課長より御説明いただいております。取りあえず、すぐに開通までに、供用開始までにすぐにやらなければいけないこととして、優先順位があるよということで、先ほども言ってございました。ウェルカムサインとか、あと法面の植樹について。あと、一つあまりよく分からなかった面が、オアシス公園の改修について、これは優先するということでございました。これについて一応確認なんですけど、道の駅の近い部分についてのみ、一応、駐車場という形に、一番供用開始までの間に優先的に整備するという形でよろしいでしょうか。

議 長 企画政策課長。

企 画 政 策 課 長 オアシス公園の関係については、駐車場を優先的に整備するという考えでは現在ございません。オアシス公園と駐車場を今どのように今後していくかということで検討を進めているような状況でございます。

議 長 瀬戸恵津子議員。

1 番 瀬 戸 かなり、まだ流動的なことだとおっしゃってはりましたが、町のプロジェクトチームやら、清水あり方研究会等のすばらしい御意見も提案もございました。それで町のプロジェクトチームの中の御意見の中で、さっき町長も言われましたインターを降りて休むためにちょっと体を動かすところとか、

もちろんだッグランとかそのようなものを造る、そんなにあそこってスペースが広いんでしょうかね。ちょっと私には理解できなかったので御説明願いたい。車だったら大体どのくらい止めるような感じで、そして、ほかにそういう施設もできるのかなということを伺います。

議
町

長
長

町長。

今考えているのは、実際に例えば撤退して、本格的にできるのは令和8年以降だろうというふうに思っています。しかし、供用開始は令和6年3月を一応目指しておりますけど若干遅れるというふうには思っておりますけど、そのときに開通すると。開通したときに、一体その山北町に降りたときに、皆さんが初めて来られる方もたくさんいらっしゃると思います。そういったときに情報を取る方法としては、やはり一番先に道の駅だろうというふうに思いますので、その道の駅で、例えば町が考えていること。あるいは清水のあり方研究会の考えていること。そういったことを私はいろいろな情報提供として、提供していきたいというふうに思ってます。できるかできないかはいろいろな条件によってありますが、やはりいろいろな希望的な可能性についてであれば、プランニングですからこういうのをつくりたいと、こういうのをやりたいと、あるいは体験学習はこういうふうにしたいというのは出していいんじゃないかと私は思っております。

それによって、あくまでこれは計画ですから、その中で例えば五つ出せばそのうちの四つはできるけど、一つはできないとかそういったことあるんだろうというふうに思いますが、やはりいろいろな山北が持っているいろんなポテンシャルの中で、こういうところがあるよ、ああいうところがあるよ、ここに行けばこういう体験ができるよということは、大いに宣伝していきたいなというふうに思っております。そのための要するに何ていうんですか、情報提供を、看板でやるのはいいのか、あるいはインターネットとかSNSがいいのか、様々なものを通じて発信していかなければいけないなというふうに思ってます。ぜひとも、そういった意味では、例えば必ずしもその丹沢湖に行くんでなくて、じゃあ洒水の滝に行きたいとか、箱根まで行きたいという人もいらっしゃると思います。そういったようなことが情報としてできるような、そういったようなことをまずやっていきたいというふう

に思っておりますので。なかなかこう全部が撤退して、こちらで思うようなものができるような流れならいいんですけど、どうしてもこの時間的なずれが相当ありそうだというふうに思ってますんで、その中で、やはり一番地域の皆さんが一生懸命考えられたあり方検討会のことは、仮に実現ができなくても夢のあることですから、それらは情報発信をしていきたいなと、私は思っております。

議 長 瀬戸恵津子議員。

1 番 瀬 戸 できることとか、できないこととか言われまして、まずオアシス公園は河川敷とか県のあれには触れないんでしょうか。

議 長 企画政策課長。

企 画 政 策 課 長 オアシス公園は河川区域に入っております。河川区域内でございますので、県の許可が必要でございます。現状のオアシス公園については、県の許可を得た中で整備をしております。

議 長 瀬戸恵津子議員。

1 番 瀬 戸 そういう県の許可とか河川敷とかそういうことが関わってくることだろうと思うんですね、現実的には。今回の計画の中では、ふれあいビレッジのその向こうのほうの土地のこととか、そういうことには触れないと。それは次の段階、終わってから清水の学校の跡地活用とかのときに一緒にそちらのほうもやるというようなことと。あと、それに今回ちょっと先に2番のほうに行ってしまうんですが、県の要するに許可、水路の変更とか、そういうようなことについては、町長の御答弁ではすごく何でしょうか、前向きに御回答いただけるんじゃないかというようなこと、前回かな、前々回かな、令和3年のとき、同僚議員のことで答えてらっしゃいますが、その後経過は、見通しというか経過を伺います。

議 長 町長。

町 長 おっしゃるように、今オアシス公園とか道の駅、あるいはそのふれあいビレッジについては、あり方検討会とかいろいろなアイデアが出ておりますけど、ここの質問にあるような清水小・中の保育園とか、そういった幼稚園、保育園ですか、その問題、あるいはその山砂利採取の跡地の問題、これについてはオファーはうんと来てるんですよ。事業者がそこで再生エネルギー

のあれをやりたいとか、あるいはその何ていうんですか、合宿所みたいなことをやってみたいとか、そういうオファーはいっぱい来てますんで、それは当然案内して、清水の小・中であれば、場所だけはこうなってますよというふうにやりますし、山砂利であれば、民間の所有ですからそれを紹介して、話にどうぞ行ってみてくださいということではやってるんですけど、それらが実際に進出してくるかどうか、あるいは計画を実行してくるかどうかというのは、まだまだこれから非常に動きがあるんだろうというふうに思います。

しかし、特に清水の小・中については、降りてすぐですから非常に多くのオファーがございます。今、例えばそういったようないろいろな、何ていうんですか、ホテルとかそういうのを仮に、あそこでホテルは、多分無理だと思いますけど、とにかく出てすぐのところは、非常にその事業者とすれば、説明が簡単でいいわけですよ。スマート下りたらすぐ右側とかね。そういうような表現ができますので、非常にその宣伝効果が高いというようなことを言ってらっしゃいます。

ですから、まだまだ、そちらに関しては相当いろいろなオファーが来て、それを我々としては受け止めて、実際可能かどうか、あるいはまた本気で出ようとしてるのか、どういう問題があるのかというようなことが検討できるんじゃないかな。また、その中で地域のほうでこういう活用というのを考えてますんで、それらと突き合わせをしなければいけないというふうに思っておりますので、これからもそういったような中で、先ほども言いましたけど、本当に柔軟に対応していきたいというふうに思ってます。

議 長 瀬戸恵津子議員。

1 番 瀬 戸 県の回答とかそういうものとか、あるいはその今おっしゃった清水の学校のところの傾斜地、そういう問題をもちろん認識してらっしゃるでしょうから、そういうものについての取組状況とかは実際にやってらっしゃるんでしょうか、伺います。

議 長 町長。

町 長 おっしゃるように、清水の小・中であれば、半分は崩落の危険があるというようなことを、当然もしそれに乗りたい人がいれば、そういうふうに説明してますし、様々な条件がありますんで、それらは皆さん承知して、町の間

題だけではなくて、その許認可は県が持っていたり、いろいろな法的なことがございますので、それらについては、当然、こちらから情報提供しながら、実際に検討していただくということで。当初はうんと早いと思ってたから、オファーいただく人がもうすぐできると思って、話に来るんですよ。しかし、これが開通は令和6年、しかも、例えば入っている業者さんがあれを壊して撤退していくには、東急さんでも1年くらいかかるだろうというふうに思っています。そうすると、そういったようなことを説明すると、やっぱり時間的にもう少し検討をさせていただきますというようなことで、また話が最初に戻ってくるというのが、もう実際のところですので。本当に何て言うんですか、場所的にはもうあそこ1か所しかないわけですよ、あれだけ近いところというのは。もう一番のこう見たときに、スマートができたときに、左側のふれあいビレッジと右側の清水の小・中が一番インターから近いというような魅力があるところですから、それについては、様々な企業からたくさんのおファーをいただいて、一応それを検討させていただいて、情報提供をさせていただいているというのが今の現状でございます。

議 長 瀬戸恵津子議員。

1 番 瀬 戸 いつでしたか、賀詞交歓会か何か町長が延びたから、少し気持ちにゆとりがあるようなこと、開通が延びたのでと言ってらっしゃいましたので、十分検討ができるんでしょうけれども。だからといって、先のことだという先延ばし的な考えでなくて、総合計画の中にもどんどん入れて、そして土地利用計画も、第3次が令和6年ですか、までですから、その中にどんどん入れて、一刻でも、ちょっと早くあの地区が山北の新たな玄関口と言われる、少しわくわくするような、先ほど瀬戸伸二議員も言ってましたが、公募したり、町民もみんなあそこに関心が向くような何か大きなものを練って、若い職員やら清水あり研さんたちの斬新な意見を取り入れてくださると今日言ってらっしゃいましたので、大変よかったと思っております。そこは、計画についてはそんな形で。

で、1番のことについてなんですけど、結局、道の駅とふれあいビレッジ、自分がキャンプしなくても、あそこ降りてきたときにビレッジのところにこうテントが張ってあって、あの景色はすごくいいですから、それで道の駅

が、今後たしか平成9年ですか神奈川県でも4か所しかないと。しかも早い時期にできた建物ですので途中で改築はしたとはいえ、上に伸びるということもできるんじゃないかと思うんですよ。これは提案なんですけど、そういうようなことは、あそこ何とかしなくちゃいけないということはお考えになっているのでしょうか、伺います。

議 長 町長。

町 長 もうおっしゃるように、道の駅ができてから、かなりの年数がたっていて、山北の後から神奈川県以外でも様々な道の駅ができております。そういった中で、何ていうんですか、アドバイスいただいている中では、やはり、今までにないような道の駅というの、当然考え方の中に入っております。例えば、道の駅が確かに上に伸びるような、上にあって、上と下がこうつながっているような、何らかの形で、上には例えば食堂があるとか物品があるとか、体験ができるとかというのが可能であれば、私のほうとしては、そういうアイデアはもうぶつけてはあるんですけど、なかなか具体的にはなっていないというのが今の現状です。

そして、ふれあいビレッジについては、道の駅と連絡ができて、同じようなことができないかというオファーが今来ておりますので、そういった意味でも、単にオートキャンプだけではなくて、道の駅的な物販であるとか、案内いろんなものをできるようなアイデアが来ておりますので、それらは、やはり清水の皆さんと情報を共有しながら本当に可能かどうか、その前には、当然、水路の直線化というのがありますし、それから大きな今テントが二つ立っておりますので、あれの撤去とか、そういった問題が非常に大きな問題ではないかというふうに思っています。

ただ、道の駅に特化すれば、今までにない道の駅も、当然私はあつていいんじゃないかなというふうに思っています。

議 長 瀬戸恵津子議員。

1 番 瀬 戸 ぜびそれを新たな目玉として、道の駅は十分に改築する必要があると思いますので、まだ直したばかりだからとはいえ全然もう時代の流れとはちょっと違ってきているんじゃないかと思いますので、また、そのようなものを形にさせていただきたいと、ぜひ努力して進めていただきたいと思います。

それと、あともう一点、今私申し上げなかったんですけど、やはり地域の人の声というのは大変大事ですので、学校の跡地です。もちろん、ホテルでも何でもいいんですけど、ぜひ子どもたちも憩える場所を、おかしいんですけど、清水の方たち何でしたっけ、議会報告会とかそういうところで伺うと、大きな子どもの遊ばせる場所がないから車が山北まで行かなきゃいけない。あるいは、あっちの南足柄まで行かなきゃいけないとか、そういうことをおっしゃるんですね。こんなに自然があって広場もたくさんあると思うのに、意外にまとまった子どもの遊び場所みたいなものがないということで、ぜひ地域の人の声もそういうところに取り入れて、何年か、令和8年とかになるんでしょうけれども、そのときにはお忘れなく、地域の声もよく聞き取って、そして観光客がわくわくするような施設になってほしいと思います。

それで、やまなみ橋の件でございますが、これについては、取りあえずやらないということなんですが、この件も、もう何年も前から同僚議員も言ってるんですけど、あそこはどうして歩行帯ができなかったんでしょうか。そんなこと聞いてもあれなんですけど。その解決方法として、何をお考えになりますか、伺います。

議 長

企画政策課長。

企 画 政 策 課 長

やまなみ橋の関係でございますけれども、やまなみ橋を建設を開始した時期というものが非常に問題に、問題というか課題になった関係で、現在、ああいう橋の形状になってございます。

というのは、やまなみ橋につきましては、平成26年2月28日に完成してございます。ですので、ちょっと工事期間について、はっきりどのくらいかというのは、私ちょっと認識してないんですけども、橋の完成するちょうど一年前になりますけれども、ちょうど一年前に町のほうで議会の全員協議会の中で、スマートインターチェンジは、もう山北町では誘致するのは諦めますよというようなことを全員協議会の中で御説明をさせていただきました。ですので、やまなみ橋を工事着手した時点では、スマートインターチェンジというのは、もう想定しない中で橋のほうは工事を進めてきた関係で、歩道がないような状態で橋のほうで完成してございます。

よく議員さんから、地元の方からも、何とかあの橋に歩道というか、人が歩ける部分を設置することができないのかというような御要望を何回か聞いたことがございますけれども、専門家の話は、橋の構造上、新たに歩道を設置するのは非常に難しいというような回答を得ている関係で、現在、暫定的に片側にグリーンベルトをひかせていただいて、そこを歩行者の方は歩いてるような状況になってございます。

それと、あとインターチェンジが開通した後は、当然やまなみ橋を通行する車両というのは、増えてくるわけで、歩行者が歩く分については非常に危険が伴うといったような中で、道の駅とビレッジを連絡する通路について、どうするんだというような考えが当然出てくるかと思います。

一つは、清水のあり方研究会さんの中では、ビレッジの上流側に河内川を渡る橋がございまして、そちらの橋を改修したらどうかとかというような意見も、先ほどのあり方研さんの報告書のほうには書いてございますので、町のほうでもあり方研さんのほうとちょっとそういう考えについて、要は道の駅とビレッジ、連絡できないとなかなか不都合な部分ございまして、何とか連絡する橋について、地元とちょっと調整をしながら検討していきたいというような考えでございます。

議 長 瀬戸恵津子議員。

1 番 瀬 戸 アクセス道路は橋の手前までなんですか。橋の県道との接続のところまでがアクセス道路じゃないんですか。誰に聞いたらいいんですか。

議 長 都市整備課長兼新東名対策室長。

都市整備課長兼新東名対策室長 アクセス道路は、県道の76号との接続点までがアクセス道路です。それが今で言う町道のスマートインター線ということで何年か前に認定させていただいております。

議 長 瀬戸恵津子議員。

1 番 瀬 戸 ちょっと話がそれますが、じゃあ町道だから町の責任でやらなければいけない。中日本にはもうできないということですか、町長。

議 長 都市整備課長兼新東名対策室長。

都市整備課長兼新東名対策室長 今から歩道の設置のようなことは、中日本さんをお願いすることは無理だろうと思っております。

議 長 瀬戸恵津子議員。

1 番 瀬 戸 そのことは承知しましたので、今、政策課長がおっしゃった上のほうの橋、そこが活用できれば本当にいいと思うんですけど、新たなつり橋みたいなものでもすごくいい、ユニークでいいんじゃないかなとも思いますので、ぜひそのあり方研究会さんのアイデアも入れて、そのような形が実現することを提案いたします。それでは、次に、やまなみ橋についてはそういうことで、いずれ何らかの安全対策が取られるということと理解いたしました。

次の2番の供用開始後についてですが、学校跡地の活用ですよ、先ほどもおっしゃった。公園が欲しいと言っているということですよ。これは、既存施設というと、大野山、共和とか丹沢湖のほうまでも大きく考えて入るという形で、これだけ年限があるので何とかそちらも入れた計画のようなものがこれから総合計画に中にもちゃんと反映して、それが実施できるような形にしていきたいと思うんですが、既存施設ということで丹沢湖のほうについてはちょっと話が飛ぶかもしれませんが、十分観光客を引っ張るのには魅力的なところだと思いますので、その辺についての県から受けて、県が手を引いてからもうそろそろなんかお金をくれるかくれないかという時期で、もう過ぎたのかしら、そういうこともございますので、今の状況はどのように取り組もうとしているかということを伺います。丹沢湖のほうのことです。

議 長 町長。

町 長 丹沢湖についても、当然今、例えば湖面利用でSUPとかいろいろなことをやらせていただいております。清水もそうなんですけど三保も同じでして、やはり今後、スマートが完成したときには、やはり人口問題、もう皆さんが望んでいるのは新しい人に住んでいただきたいというような、どちらも希望を持っていちゃいますんで。まず、それは町としては、かなり優先度の高い要望だろうと。もちろん観光客が来て、いろいろなことをやるというのは、当然スマートができれば、ある程度の効果があるというふうに、また我々もそういうふうにやっていこうというふうには思っておりますけど。住んでらっしゃる人の切実な願いとしては、やはり人口が減っている、そしてその住みたいという人がいるんだけど、いろいろな例えば何ていうんですか、国

定公園の状況とかそういったような建蔽率とか様々な問題の中で、なかなか住宅地を増やせない。例えば1戸や2戸造っても住んでくれないということは聞いておりますので、そういった意味では、どちらが先になるか分かりませんが、私としては清水のほうが先かなと、インターがもし開通すれば、そこへ住宅をある程度貼り付けても住んでいただけるんじゃないかというふうに思ってます。その続きとして、当然次は丹沢湖のほうというようなことはあろうというふうに思ってます。

丹沢湖については、取りあえず、今オファーが来てるのは、例えばSUPをやってる関係の人が住民票まで持ってくるかどうかは別としても、何らかんだしょっちゅう来ますんで、その拠点としてないかというようなオファーも来ております。ですから、かなり住まいとして充実していれば、可能性は私は非常に高いんじゃないかと。しかもスマートができることによって、東京方面に日帰りで行けるといようなこともございます。これからスマートができてきたときには、いろいろな可能性が非常に高まると。ですから、何が何でも今までみたいに観光客に来ていただいて楽しんでいただく、それはもちろんなんですけど、その利用方法について、非常に幅が広がるんじゃないかなというふうに思っています。

ですから、その広がった幅を町としてどのように受け入れるか、そういったことが特に丹沢湖周辺では非常に多いんじゃないかなと。

私も実際に住みたいんだけど、どっか紹介してくれないというのが実際にあるんですよ。ただ、何というんですか、どこを狙ったかと言うと、町のところで検索して何と山中のプールのところを整地したんで、あそこをどうだというふうに言ってきたんですよ。我々の発想ではないわけですよ。あんな広いところを分割して、こっち、家を建てるならあれですけど、都会の人ですから、言ってみれば400坪やそこらあったほうが値段も安いし、そういうところに住みたいというところがあるんですよ。それが、たまたま山北町でこう住みたいと言うんで探したらそういうような広いところが、山中のプールのところでしたけど、それが、例えば丹沢湖にあるんならもうぜひということになるんですね。もともとは、あちらの三保に住みたいというのが希望でしたから、ですから、そういうふうに今丸山を見てもそうです

けど、我々の思うことと、やはり皆さんが、都会の方が思うことは違ってくるということです。僕はスマートができたときには、当然清水のところはしっかりとしたものを用意すれば、私は住んでくれるのではないかなというふうに思ってます。そういったものをぜひ計画して、そして、それを次には丹沢湖のほうにも広げていきたいというふうに思ってます。何とかそういったことが増やせないかと。だから、単純に観光客を増やすというようなことももちろんですけど、やはり切実な願いとして、皆さんが人口減少について切実に思っているということも承知しております。そういったことも併せて、このスマートに併せてやっていきたいというふうに思ってます。

議 長 瀬戸恵津子議員。

1 番 瀬 戸 2 番までについては、それで、これからに期待していきたいと思っています。

次に、3 番の周辺土地利用について、総合計画や土地利用との整合性を図って、法規制を精査し検討していきますと言われてるんですが、ここの中にも、土地利用構想については、二つの大きな課題となる事案は山砂利採取地の跡地活用と旧清水小・中学校の跡地活用とこういつている。清水小・中学校の件については、今お聞きしました。それで透間の山砂利跡地活用の検討についてですが、ここの御回答の部分なんですが、現在、事業者が保安林代替施設云々というところが、昨年の3月議会に、やはり、これとまるっきり同じ答弁をされていたようでございます。現在、事業者が保安林代替施設整備計画や、その後の平地化事業計画の見直しを進めている段階でありまして、だから事業者がやっているから町はちょっと見てるんだよという感じに受け止められるんですが、町としては、そもそも保安林代替施設整備計画は保安林解除のことでございましょうか。それと、平地化計画についてもお願いいたします。

議 長 企画政策課長。

企 画 政 策 課 長 保安林代替施設整備計画の関係でございまして、山砂利採取をしているAブロックのところなんですけれども、保安林がもともとあった土地でございまして、その保安林を伐採して砂利を採取しているというような

状況でございます。したがって、その保安林の代わりになる代替施設を山砂利を採取した後に設置しなければならないということで、代替施設につきましては、例えば保安林の代わりになるようなコンクリート製の構造物ですとかU字溝ですとか、要は保安林が担っていた役割を別の資機材で担うといったような施設を代わりに設置しなければならないというような形で、事業者のほうで、今その整備計画を作成してる状況でございます。

これについては、保安林の関係でございますので、県を通して、国に対していろいろ調整をしなければならない関係で、1年や2年普通にかかるような内容でございますので、現在町のほうでは、事業者と連絡を取りながら事業の進捗状況について、注視してるといったような状況でございます。

議 長 瀬戸恵津子議員。

1 番 瀬 戸 じゃあ、事業者ときちっと連絡を取りながらやってるという形と理解いたしました。平地化計画についてもそのようにやってらっしゃるのでしょうか。

議 長 企画政策課長。

企 画 政 策 課 長 平地化計画につきましては、保安林の代替施設整備計画とほぼ同じような内容になるかと思っておりますので、まずは保安林の代替施設の整備計画、これを事業者のほうにつくっていただいて、まずは国に最初に認めていただくというようなことが先にやっていただくことで、その次に平地化事業計画のほうを作っていただいて、町のほうに一度報告していただくといった関係になります。その平地化事業計画を基に、実際、どのような山砂利採取跡地の土地の形状がどのようになっているのかというのが分かりますので、その計画を見た中で、将来的にそこにどのような土地利用が図れるかというのを将来的に検討していくといったような形になります。

議 長 瀬戸恵津子議員。

1 番 瀬 戸 それでは、事業者の方そういうことの計画出すことに対してはやぶさかではない、ちゃんときちんとやっていて、以前、町がちょっととんとんしないと返ってこないような感じをちょっと聞きましたけれども、その点についてはいかがでしょうか。

議 長 企画政策課長。

企 画 政 策 課 長 先般も砂利の事業者さんと設計屋さんが役場のほうに来られまして、そ

の辺の話もさせていただいておりますので、町のほうで何だろう催促するようなことがなくても、事業の進捗について、何か変化があれば、町のほうに連絡がくるような形で現在連携を取らせていただいております。

議 長 瀬戸恵津子議員。

1 番 瀬 戸 確かに、土地利用計画なんか見ても、重要なあの88ヘクタールなんか、なかなかの広さでございますし、今いろんな御殿場市なんかもやってますように、エネルギー問題で脱炭素化で水素何とか、何かいろいろな計画がみんな、もちろん太陽光のこともいろんな方が言ってまいりますが、そういう展開にしていく、その元がきちっとしていかなければ次へ行けないでしょうから、ぜひ、その点については、事業者があつてのことでございます。それはよく分かります。でも町でもきちっといろいろな税の関係もございまして、うし、また地権者の方もだんだんお年を召して相続の問題で何だかんだといろいろな問題をそれこそ前回空き家の問題で町長がいろんな、法的ないろんなことがあつてとおっしゃいましたけど、それ以上のものが多分関わってくると思いますので、そんじょそこらの何年かですることじゃないと思いますので、ぜひその点についての計画はどのようにお考えでしょうか、伺います。

議 長 町長。

町 長 基本的には、まず町としては、砂利の採取が時間がかかってしまっていると、当初の計画から、平地化計画から見たらかなり時間が、当初計画よりかかってくると。それから、その平地化計画がなったときには、保安林の多分解除が一部行われるということで、固定資産税が町に入ってくるだろうというふうに思っています。

ですから、そういったようなところはしっかりと確認できるような平地化計画、そういったような保安林を戻すというようなところを、町としては、一生懸命チェックしながら進めてるということで。その2点が一番町としては、高齢化するということはもちろんですけど、私が既にもうあそこで相続を何件かやりましたので、前に非常に非課税になっておりますんで、私としては、町の責任者として非課税である何ていうんですか、保安林のところについては、やはり早く非課税でなくて平地化して課税をして適正に民地であ

れば、皆さん税金を払うなり、また払わないのなら保安林としてきっちりとしたものに戻していただいて、すっきりしたところでやっていきたいというふうに思っておりますので、その辺を理解していただければというふうに思っています。

議 長 副町長。

1 番 瀬 戸 御答弁ありがとうございます。

議 長 瀬戸恵津子議員、副町長が。

1 番 瀬 戸 ごめんなさい。

議 長 副町長。

副 町 長 山砂利の跡地のところは、決定的に違うのは全て民地だということです。町有地じゃないです。個人が持っている土地です。それから、もう一つは、もともと保安林であって、税金がかかってないところ、今現在こう掘ってますけど、保安林のままなんです。税金が一銭もかかってないんです。その辺のところで、町長が申しあげましたように平地化、平らにしてやるという形で国、県と調整をした中で始めたものなんですよね。ですから、まずそういうふうな形で平地化計画、計画の中で砂利の跡地を計画どおり進めて、それから、どういうふうになるのでしょうか。保安林解除というふうになるんですか、その次の段階に行かなければいけない。私のところなんかにも太陽光発電とかいろいろオファーは来ますけれども、やはり、どうしても保安林で、制約がある。平地化、一回戻してやらなければならないというところがどうしたってあるということなんで、町有地じゃないんですよね。私どもが余計なこと言えないというのがありまして、その辺のところが御理解いただきたいということでございます。

議 長 瀬戸恵津子議員。

1 番 瀬 戸 民地というのはもう重々承知しております。それゆえ、今までもずっと何となく議会でもこう伺いにくいこともございました。だけれども、山北町のやっぱり土地利用計画にも出てくることもございますし、やはり責任もって持続可能な山北町にするためには、その方たちにもしっかりと適正な税金も払っていかなきゃいけないでしょうし、そういうことも、また有識者の方からも言われますし、そういうことを議会でも何も聞くこともできないと

いう状況ではないと思いますので、これからも伺わさせていただきたいと思っています。町がどういうふうにしていくかということが、そこが町の大事なところだと思いますのでお願いします。

議 長 副町長。

副 町 長 以前、山地対策特別委員会というものは、議会の中で組織されてました。その中で、透間の砂利の跡地について、平地化計画も含めて、いろいろ議員さん方にも町議会としても議論していただきましたけれども、今現在は、それがありませんので、その委員会がないんですかね。ないと思いますので、その辺のところはしっかり町として指導していかなきゃいけないというふうに思っています。

議 長 瀬戸恵津子議員。

1 番 瀬 戸 最後になります。一番最後の4番目の質問なんですが、これは私が言うことじゃなくて、むしろ町長のほうからこれは一番気になっている課題なんですよと議会の答弁でおっしゃったようなことがございますので、やはりそうだと思いますので、今日、私いただきましたけれども、どのような形で進んでいくのかなというところ、この1点だけお聞かせ願いたいと思います。警察との関連ですね。ここに書いてございます。県警本部と協議を行っているところです。交差点の交通安全対策ということで伺います。

議 長 町長。

町 長 スマートインターチェンジについては答弁でもさせていただいておりますけれども、当初の計画の1日大体1,300台、その車が例えばどっかで渋滞したり、あるいは逆に駐車場がなかったり、そういうようなことが起こらないようにインフラのほうを整備しなければいけないというふうに考えております。簡単ではございませんけれども、今現在、私がいろんなところをもう実際に車で行って見て、新東名も静岡のほうとかも行きますけれども、そうすると、やはり情報を取るの道駅とコンビニです。ほとんどの方がそこを情報源にして、そして、こう動いていると。そして、そのためにそのところに正確な情報が伝わるように、例えばどこに行くちょっと混んでいるよと、あるいは駐車場が空いてるよとか、混んでるよとか、そういったような情報をやはり的確に知らせて、そして皆さんが気持ちよく山北へ来て、無事に帰って

いけるようなことを考えなければいけないというふうに思ってますので、当然、インフラ整備についてはしっかりやっていきたいというふうに思っています。

観光バス等については、非常に道がなかなか擦れ違えるようなところがない場合もありますんで、そういったようなのは、やはり県にお願いするしかないというふうに思いますけど、通常は一般の車両が多いんだろうというふうに思いますんで。それらについては、やはりそういったような安全性とか、あるいはその混んでなかなかできないようなことがないようにしっかりと整備をしていきたいというふうに思っておりますので。いろいろな参考事例は、特に何ていうんですか、新しくできた圏央道とか、そういうのを見ると、やはり車の台数が非常に多いですし、また、それを誘導するようなサインであるとか、あるいは当然ナビゲーションも、非常にこう進んでますんで、それらの情報を的確に知らせながら、インフラの整備を進めてまいりたいというふうに思っております。

議 長 瀬戸恵津子議員。

1 番 瀬 戸 今から国のお力も借りて、国交省とかぜひ行って、また山北の実情を訴えて、そういうふうにならないとは限らないわけですから、そういう手当てをしなければいいんだけど、ないほど、そんな混まなければいいんですけども何が起こるか分からないですからまた、そういう国との連携もよろしく、もう課題満載ですのでよろしくお取り組みください。

議 長 町長。

町 長 一番のポイントは、皆さんが、要するに携帯、スマートフォンとかでも情報を得ると、そして、またその情報を得るインターネット以外の情報ですと、現地でやはりさっき言ったように道の駅とかコンビニで情報を得るとというのが非常に多いものですから、その情報の出し方、そういったものを的確にやって、そして、また皆さんに選んでいただくような、そういったようなことが非常に大事ではないかなというふうに思ってます。

イメージ的には、例えばA Iを使って、山北に来てどこがいいかなというのを、例えばA Iを使って、日帰りで例えば何人で、大人が何人、子どもが何人とかと言うと勝手にこう機械が選んでくれて、それを一つの提案

として出していただけるというようなことが可能であれば、何というんですか、当然データの中で、ここは混んでるからちょっとほかのところがいいとかということはあるというふうに思いますんで。こういった今の情報化の中では、やはりその一人のその観光客に合ったような体験とか、あるいは見学を提案するのが、一番私はこれからの観光ではないかというふうに思ってますんで、何か今まではどちらかというと大体コースがあって、AコースとかBコースとかこういうようなのを選んで、同じように回ってくるというようなのが多かったんですけど、これだけインターネットが普及した場合には、それぞれが自分たちでオンリーワンの観光を楽しむということが出来るんじゃないかと、食べるものにしても自分の好きなものを選ぶというような、そんなようなことがこれからの山北町の観光立町としては必要なことではないかというふうに考えております。